

第1 令和2年度予算編成について

現在の我が国の景気は、輸出が引き続き弱含む中で、製造業を中心に弱さが一段と増しているものの、緩やかに回復している。一方、先行きについては、当面、弱さが残るものの、雇用・所得環境の改善が続く中で、緩やかな回復が続くことが期待されるが、海外経済の動向や金融資本市場の変動の影響に加え、消費税率引上げ後の消費者マインドの動向に留意する必要がある。

このような経済状況の中での2020年度の県税収入は、企業収益の減速に加え、法人県民税の税率引下げの影響により、法人二税において1割を超える減収が見込まれる。また、地方消費税は税率引上げによる影響が本格的に現れるものの、税収に連動する税交付金等の支出が増加するため、実質収入としての県税収入は大幅な減少が見込まれる。一方、歳出では、医療・介護などの扶助費をはじめとした義務的経費が引き続き増加し、2020年度当初予算の編成にあたっては、依然として多額の収支不足が見込まれた。

このため、2019年度における財源確保等により年度内の財政調整基金等の取崩しをできる限り取り止めて、その上で、2020年度において再び取り崩すという2か年にわたる財源調整を図ることにより、収支不足を解消したところである。

引き続き厳しい財政状況ではあるものの、「日本一元気な愛知」、「すべての人が輝く愛知」、「日本一住みやすい愛知」の実現を目指し、愛知のさらなる飛躍・前進に向けて全力で取り組んでいく必要がある。

そこで、先に発表した本県独自の総合経済対策である「A i c h i [愛知]・総合経済対策」に掲げた施策を盛り込み、2019年度2月補正予算と合わせた切れ目のない15か月予算として、以下の「13の柱」を重点に、予算編成を行った。

- ◎ ジブリパークを2022年に実現
- ◎ ステーションA iプロジェクトの推進
- 1 「リニア大交流圏」の形成
- 2 産業首都あいち
- 3 農林水産業の振興
- 4 「人が輝くあいち」
- 5 観光あいち・魅力発信
- 6 文化・スポーツの振興
- 7 あいちのグローバル展開
- 8 安全・安心なあいち
- 9 環境首都あいちの推進
- 10 東三河の振興
- 11 地方分権・行財政改革の推進